

とりこし苦勞

定光寺 乙川文英

平成三十一年四月二十二日 加茂法話会

『仏教聖典』より

まだこない未来にあこがれて、とりこし苦勞をしたり、過ぎ去った日の影を追って悔いていけば、刈り取られた葦のように瘦せしぼむ。

過ぎ去った日のことは悔いず、まだこない未来にはあこがれず、とりこし苦勞をせず、現在を大切にふみしめてゆけば、身も心も健やかになる。(※)

過去は追ってはならない。未来は待つてはならない。ただ現在の一瞬だけを、強く生きねばならない。

今日すべきことを明日に延ばさず、確かにしていくことこそ、よい一日を生きる道である

(仏教伝道協会『仏教聖典』二〇一ページ。出典表記なし)

(※ 仏教伝道協会『さとり』の知恵を読む』二二二ページに「パーリ『中部経典より』の出典表記あり」)

『中部経典』より

過去を追いかくことなく また未来を願いかくことなし

過去はすでに過ぎ去りしもの 未来は未だ来ぬものゆえに
現に存在している現象を その場その場で観察し

揺らぐことなく動じることなく 智者はそれを修するがよい
今日こそ努め励むべきなり 誰が明日の死を知ろう

されば死の大軍に 我ら煩うことなし
晝夜怠ることなく かように住み、励む

こはまさに「日々是好日」と 寂靜者なる牟尼は説く

(中部経典第一三一經「Bhaddekarattasutta」)